

氏名

点数 点/100点

各論演習 6-1

問1)

沖繩マシナリー(株)では、製造間接費について部門別計算を実施しており、製造部門として切削部門と組立部門を、補助部門として動力部門、修繕部門と事務部門を設けている。そこで、当月における次の資料を参照して部門費配賦表を作成し、各製造部門勘定の借方記入を行いなさい。

(資料)

1 部門個別費実際発生額

切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
400,000円	380,000円	300,000円	150,000円	300,000円

2 部門共通費実際配賦額

切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
400,000円	400,000円	100,000円	33,000円	200,000円

3 補助部門費の配賦基準

	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
動力消費量	4,500kwh	4,000kwh	-	1,500kwh	-
修繕時間	150時間	225時間	125時間	-	-
従業員数	80人	60人	40人	20人	50人

(注) 補助部門費の配賦方法は相互配賦法(連立方程式法)によること。

解1)

単位:円

部門別配賦表

摘要	合計	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
部門個別費						
部門共通費						
部門費計						
動力部門費						
修繕部門費						
事務部門費						
製造部門費						

製造間接費-切削部門

部門個別費	
部門共通費	
動力部門費配賦額	
修繕部門費配賦額	
事務部門費配賦額	

製造間接費-組立部門

部門個別費	
部門共通費	
動力部門費配賦額	
修繕部門費配賦額	
事務部門費配賦額	

問2)

当社では、製造間接費について部門別計算を実施しており、製造部門として切削部門と組立部門を、補助部門として動力部門、修繕部門と事務部門を設けている。そこで、当月における次の資料を参照して部門費配賦表を作成し、各製造部門勘定の借方記入を行いなさい。

(資料)

1 部門個別費実際発生額

切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
400,000円	380,000円	300,000円	150,000円	300,000円

2 部門共通費実際配賦額

切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
400,000円	400,000円	100,000円	33,000円	200,000円

3 補助部門費の配賦基準

	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	事務部門
動力消費量	4,500kwh	4,000kwh	-	1,500kwh	-
修繕時間	150時間	225時間	125時間	-	-
従業員数	80人	60人	40人	20人	50人

(注) 補助部門費の配賦方法は階梯式配賦法によること。

解2)

単位：円

部門別配賦表

摘要	合計	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	()	()	()
部門個別費						
部門共通費						
部門費計						
()						
()						
()						
製造部門費						

製造間接費-切削部門

部門個別費	
部門共通費	
動力部門費配賦額	
修繕部門費配賦額	
事務部門費配賦額	

製造間接費-組立部門

部門個別費	
部門共通費	
動力部門費配賦額	
修繕部門費配賦額	
事務部門費配賦額	

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 6-2

問1)

東北工業(株)の湘南工場では、個別原価計算を採用している。当工場では、部門別実際配賦を実施している。そこで、以下の製造間接費に関する(資料)にもとづいて、各設問に答えなさい。

(資料)

1. 部門個別費の内訳は以下のとおりである。

	製造部門		補助部門		
	機械加工部	組立部	動力部	修繕部	事務部
補助材料費	620,000円	200,000円	150,000円	138,000円	52,000円
機械償却費	400,000円	500,000円	200,000円	150,000円	-
間接工賃金	700,000円	800,000円	800,000円	670,000円	240,000円

2. 部門共通費は、費目別に適切な配賦基準を選択して各製造部門及び各補助部門に配賦する。ただし、工場長給料と守衛費については、従業員数にもとづいて配賦する。部門共通費の内訳は以下のとおりである。

建物減価償却費	9,600,000円
機械保険料	2,400,000円
電灯料	7,600,000円
工場長給料	1,980,000円
守衛費	660,000円

3. 補助部門費は、適切な配賦基準を選択して各製造部門に配賦する。ただし、事務部門費については、従業員数にもとづいて配賦する。
4. 部門共通費及び補助部門費の配賦基準に関するデータは以下のとおりである。

	機械加工部	組立部	動力部	修繕部	事務部	合計
機械馬力数(馬力)	240	400	80	64	-	784
機械帳簿価額(万円)	2,880	1,920	880	720	-	6,400
電灯稼働本数(本)	38	38	38	19	19	152
電灯ワット数(kw)	960	960	560	360	200	3,040
建物専有面積(m ²)	16,800	16,800	11,200	6,720	4,480	56,000
従業員数(人)	88	88	40	24	24	264
動力提供量(kwh)	3,600	4,400	-	2,000	0	10,000
修繕時間(時間)	240	80	80	-	-	400

5. 機械加工部門は機械作業時間を、組立部門は直接作業時間を配賦基準としている。なお、当工場では、直接工は機械加工部と組立部のいずれかに所属し、製品生産のための加工・組立を行っている。製造指図書別の内訳は以下のとおりである。

	#100	#101	#102	合計
機械加工部門の直接工の直接作業時間(DLH)	525	175	175	875
組立部門の直接工の直接作業時間(DLH)	800	960	740	2,500
機械作業時間(MH)	540	380	330	1,250

- 【設問1】 仮に、当工場で総括配賦を実施した場合、指図書 # 100に集計される製造間接費を計算しなさい。なお、機械作業時間を基準に配賦を行う。
- 【設問2】 部門別計算の目的を2つ簡潔に説明しなさい。
- 【設問3】 直接配賦法と相互配賦法について簡単に説明し、それぞれの長所、短所を述べなさい。
- 【設問4】 直接配賦法により補助部門費の配賦を行い、指図書 # 100に集計される製造間接費を計算しなさい。
- 【設問5】 純粋な相互配賦法により補助部門費の配賦を行い、指図書 # 100に集計される製造間接費を計算しなさい。また、当該方法による配賦方法では、各補助部門のサービスを自家消費していても、それを考慮せずに計算を実施してかまわない。その理由を答えなさい。

解1)

【設問1】 円

【設問2】

【設問3】

【設問4】 円

【設問5】 円

自家消費を考慮せずに純粋な相互配賦法による計算を実施してもかまわない理由

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 6-3

問1)

北陸工場の動力部は、その製造部門である切削部と組立部に動力を供給している。そこで、下記の条件にもとづき、各問いに答えなさい。

1. 製造部門の動力消費量 (単位 : kwh)

	切削部	組立部	合計
年間消費能力	12,960	8,640	21,600
20×0年度期首における年間予想総消費量	9,720	6,480	16,200
20×0年10月の実際消費量	850	450	1,300

2. 動力部月次変動予算および20×0年10月実績

動力月間生産 (供給) 量		月次予算	10月実績	
		1,350Kwh (注)	1,300Kwh	
動力部費 (単位 : 円)	変動費	2,160,000円	2,247,500円	
	固定費	労務費	742,500円	762,000円
		減価償却費	877,500円	880,000円
		その他	810,000円	855,500円
	合計		4,590,000円	4,745,000円

(注) 1,350Kwhは、20×0年度の年間予想総消費量にもとづく月間正常生産 (供給) 量である。

3. 20×0年11月初めに開催された原価会議での議論

- (1) 切削部長 「当社では、補助部門費の配賦は、直接配賦法による実際配賦を行ってきた。しかし、10月の動力部費を実際配賦すると、われわれ製造部門は、動力部の浪費まで負担させられることになるから、不当であると思う。」
- (2) 原価計算課長 「それなら実際配賦をやめて、直接配賦法による予定配賦をすればよいでしょう。そうすれば、動力部の勘定に変動費及び固定費の予算差異が残り、製造部門に配賦されることはありません。」
- (3) 動力部長 「その方法では、操業度差異まで動力部の勘定に残ってしまう。動力部にとって操業度差異は管理不能であり、動力部の固定費は製造部門が負担すべきだ。」
- (4) 原価計算課長 「それでは、動力部の変動費は (a) 配賦し、固定費は製造部門の動力 (b) の割合で予算額を配賦する (c) 配賦法によるのが良いと思います。」

【設問1】 10月の動力部費を単一基準により実際配賦した場合の、10月の動力部費の1kwhあたり実際配賦率および切削部に対する実際配賦額を計算しなさい。

【設問2】 10月の動力部費を単一基準により予定配賦した場合の、予定配賦額および総差異を計算し、さらに総差異を変動予算を使用して予算差異と操業度差異に分析し、それらを解答用紙の関係勘定に記入しなさい。

【設問3】 上記3. (4) の (a)、(b)、(c) に適切な言葉を入れ、さらに、3. (4) で原価計算課長が提案した方法にしたがって10月の動力部費を配賦した場合の、組立部に対する配賦額を計算しなさい。

解1)

【設問1】

10月の動力部費の1kwhあたり実際配賦率 = 円

切削部に対する実際配賦額 = 円

【設問2】

(注) 計算した結果を下記に記入しなさい。ただし、差異勘定への記入は、借方または貸方のどちらかに記入すること。

動力部			
変動費実際発生額	2,247,500	切削部への予定配賦額	<input type="text"/>
固定費実際発生額	2,497,500	組立部への予定配賦額	<input type="text"/>
		総差異	<input type="text"/>
	<u>4,745,000</u>		<u>4,745,000</u>
動力部予算差異		動力部操業度差異	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

【設問3】

(a)	<input type="text"/>
(b)	<input type="text"/>
(c)	<input type="text"/>

組立部に対する動力部費配賦額

変動費配賦額	<input type="text"/>	円
固定費配賦額	<input type="text"/>	円
配賦額合計	<input type="text"/>	円

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 6-4

問1)

山陽製作所(株)では全部実際部門別個別原価計算を採用し、補助部門費の配賦には階梯式配賦法と複数基準配賦法(変動費と固定費を別の基準で配賦する方法)を使用している。

1. 当年度の月次予算データ

提供部門	提供先	合計	製造部門		補助部門		
			機械部	組立部	保全部	動力部	事務部
事務部	従業員数(人)	510	200	250	30	20	10
動力部	動力消費能力(万kwh)	290	170	80	40	-	-
保全部	計画保全時間(時間)	12,500	6,000	4,000	-	2,500	-
1次集計予算							
	変動費(万円)	16,400	8,848	5,052	1,500	1,000	-
	固定費(万円)	26,000	10,320	12,830	1,720	630	500
	合計(万円)	42,400	19,168	17,882	3,220	1,630	500

(注) 動力計画供給量は、動力消費能力に等しい。

2. 当月の実績データ(従業員数に変化はない)

提供部門	提供先	合計	製造部門		補助部門		
			機械部	組立部	保全部	動力部	事務部
動力部	動力実際供給量(万kwh)	240	150	75	15	-	-
保全部	実際保全時間(時間)	11,250	5,850	3,150	-	2,250	-
実際1次集計							
	変動費(万円)	15,350	8,400	4,560	1,450	940	-
	固定費(万円)	26,000	10,320	12,830	1,700	650	500
	合計(万円)	41,350	18,720	17,390	3,150	1,590	500

【設問1】 月次予算データにもとづき、月次予算部門別配賦表を完成しなさい。

【設問2】 補助部門では、月次予算データにもとづき公式法の変動予算が設定されている。【設問1】で作成した月次予算部門別配賦表により、動力部の月次変動予算を1次式で示しなさい。ただし、この変動予算は他の補助部門からの配賦額をも含むものとし、自部門での発生額と他部門からの配賦額との合計額で示せばよい。

【設問3】 当月の補助部門費の配賦法に関するX経理部長とY原価計算課長との会話は、次のとおりであった。

- X経理部長 「当社の実際月次損益計算では、実際補助部門費を階梯式配賦法と複数配賦法によって製造部門へ配賦してきたけど、この方法では、『補助部門での浪費までも製造部門へ配賦してしまう』と製造部長から文句が出るので困っちゃう。何か良い用法はないかなあ。」
- Y原価計算課長 「だったら、階梯式配賦法と複数基準配賦法を使用する際に、補助部門の変動費の配賦には、変動費率を使用しましょう。固定費の配賦に固定費率を使用すると、差異のみならず、差異までも補助部門勘定に残ってしまいます。差異は補助部門の責任者にとって管理不能なことが多く、計画用の情報としてはいいけど、業績評価用には不適当なので、固定費については固定費率を使用せず、また実際発生額ではなくを配賦するのがよいでしょう。」

上の会話における空欄に適切な語句を補ったうえで、当月の補助部門費の配賦を原価計算課長の提案する方法によって配賦し、その計算結果を解答用紙の原価計算関係諸勘定に記入しなさい。

【設問4】 動力部で発生した当月の総差異を、月次変動予算を利用し、変動費と固定費ごとに差異分析しなさい。

解1)
【設問1】

当年度月次予算部門別配賦表 単位：万円

費目	合計	製造部門				補助部門							
		機械部		組立部									
		V	F	V	F	V	F	V	F	V	F		
部門費合計	42,400	8,848	10,320	5,052	12,830								
製造部門費	42,400												

(注) Vは変動費、Fは固定費を意味する。

【設問2】

下記の () 内に金額を記入しなさい。

動力部月次変動予算許容額 = 変動費率 () 円/kwh × 動力実際供給量 + 固定費 () 円

【設問3】

当月の原価計算関係諸勘定 (単位：万円)

(注1) 下記空欄に金額及び部門名並びに変動費・固定費を記入しなさい。

(注2) (自) は自部門費、各補助部門からの配賦は(事)、(保)、(動)と記載すること。

(注3) 変動費はV、固定費はFと記載すること。

事務部			
F	500	F	500

保全部			
(自) V		V	
F		F	
		総差異	

動力部			
(自) V		V	
F		F	
		総差異	

機械部			
(自) V			
F			

組立部			
(自) V			
F			

【設問4】

動力部費差異分析

(注) 下記の () 内には金額を、[] 内には借方または貸方を、『 』内には差異の名称を記入しなさい。

総差異 = () 万円 []
 = 変動費 『 』 差異 () 万円 []
 + 固定費 『 』 差異 () 万円 []

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 6-5

問1)

部門別個別原価計算を採用している株式会社紳士服S（以下当社という。）は、オーダーメイドの紳士服を製造・販売している会社である。当社は、製造部門に裁断部と縫製部、補助部門に管理部を有しており、管理部は労務等のサービスを製造部門に提供している。

【設問1】 当社は従来より、製造間接費の補助部門から製造部門への配賦に実際発生額を単一基準配賦法で配賦していた。そこで、以下の（当月実績資料）をもとに、当月も従来どおりの配賦方法とした場合、管理部費について裁断部と縫製部に対する配賦額を求めなさい。

（当月実績資料）

1. 管理部のサービス提供量（単位：時間）

	裁断部	縫製部	合計
当月の実際提供量	532時間	348時間	880時間

2. 管理部費

当月（4月）の実績金額	629,200円
-------------	----------

【設問2】 【設問1】と年初に設定した下記の（当月予算資料）を受けて、当社では以下のディスカッションが行われた。下記ディスカッションの空欄を埋めなさい。また、ディスカッションの配賦方法とした場合の管理部の勘定記入及び管理部の責任となる差異額を示しなさい。

（当月予算資料）

1. 管理部のサービス提供量（単位：時間）

	裁断部	縫製部	合計
当月の予定提供量	540時間	360時間	900時間

2. 管理部費

当月（4月）の予算金額	630,000円
-------------	----------

ディスカッション

<工場長>

「当月の実績は629,200円なので、予算金額を（ ① ）円下回った。仲の良い裁断部と縫製部と管理部のみんなの努力のおかげだ。」

<予算部長>

「そうでしょうか？ 当月の管理部は暇そうにみえました。あまり働かなくてコストが削減されるのは当たり前と思えます。原価計算部長（当月着任した有能な部長）はどう思いますか？」

<原価計算部長>

「予算部長のおっしゃるとおりです。折角、補助部門の予算を年初に立てていますので、予定配賦し、その差異額を計算すると良いです。これで補助部門の製造間接費の浪費（または節約）額が把握できます。」

<予算部長>

「なるほど。コストが努力のおかげで削減できたのかどうかハッキリするね。」

<縫製部長>

「それに、管理部門に支援されたとはいえ、我が製造部門への配賦額に管理部の浪費や節約分が混入されていないだろうか？」

<裁断部長>

「縫製部長と同じ意見です。その意味でも、予定配賦額による計算は有用と思います。」

<原価計算部長>

「裁断部長の言うとおり、予定配賦額による計算の利点に、補助部門の浪費（または節約）額が製造部門に負担させられることが無いので、原価管理に役立つことも挙げられます。また、予定配賦することの利点として、もう一つ、（ ② ）があります。」

<工場長>

「さすが、原価計算部長！。早速、予定配賦額による単一基準配賦法で計算し直してください。」

【設問3】 【設問2】による資料をもとに工場長・各部門長とのディスカッションが行われた。

下記ディスカッションの空欄を埋めなさい。また、下記ディスカッションの配賦方法とした場合の管理部の勘定記入及び管理部の責任となる差異額の把握・分析を示しなさい。

<管理部長> 「単一基準配賦法による計算に同意できません。というのも、裁断部と縫製部の作業がスムーズに行われることを支援するために私たち補助部門は月間消費時間を見積り、人員を確保しています。下記、（管理部最大提供能力試算資料）をご覧ください。当月の月間提供能力1,000時間を前提に見積った（③）費と当月の実際提供量880時間をベースに計算した（③）費予定配賦額について、両者の差額は（④）差異として計算されます。これは、不利差異であっても有利差異であっても、私たちの責任ではありません。すなわち、すべての差異が補助部門である管理部の責任ではないと考えます！」

（管理部最大提供能力試算資料）

管理部のサービス提供量（単位：時間）

	裁断部	縫製部	合計
当月の提供能力	600時間	400時間	1,000時間

<原価計算部長> 「管理部長の言うとおりです。それでは部門費を固定費と変動費に区分調査しましょう。そして、それを元に予算を作成し直し、複数基準配賦法で配賦しましょう。当年度は今月始まったばかりですから、急げば作れるはずですよ。」

<工場長> 「うん、管理部長、原価計算部長、裁断部長、縫製部長はとても協力し合う仲だ。よし、協力してすぐに（変動費・固定費別 当月予算資料）と（変動費・固定費別 当月実績資料）を作成・調査し、計算し直そうよ！」

各部長が協力して作成・調査した資料は以下のとおり。

（変動費・固定費別 当月予算資料）

管理部費

	合計	変動費	固定費
当月（4月）の予算金額	630,000円	297,000円	333,000円

（変動費・固定費別 当月実績資料）

管理部費

	合計	変動費	固定費
当月（4月）の実績金額	629,200円	295,680円	333,520円

解1)

【設問1】

裁断部に対する実際配賦額 = 円
 縫製部に対する実際配賦額 = 円

【設問2】

ディスカッションの空欄

①	<input type="text"/>
②	<input type="text"/>

		管理部	
実際発生額	629,200	裁断部への予定配賦額	<input type="text"/>
総差異	<input type="text"/>	縫製部への予定配賦額	<input type="text"/>
		総差異	<input type="text"/>

(注) 単位は円。また、総差異勘定への記入は、借方または貸方のどちらかに記入し、不要な方には横棒" - "を記入すること。

管理部の責任となる差異額 円 []

(注) カッコ内には"借方"または"貸方"を記入すること。また、不要な欄にはすべて横棒" - "を記入すること。

【設問3】

ディスカッションの空欄

③	<input type="text"/>
④	<input type="text"/>

		管理部	
変動費実際発生額	295,680	裁断部への予定配賦額	<input type="text"/>
固定費実際発生額	333,520	縫製部への予定配賦額	<input type="text"/>
総差異	<input type="text"/>	総差異	<input type="text"/>

(注) 単位は円。また、総差異勘定への記入は、借方または貸方のどちらかに記入し、不要な方には横棒" - "を記入すること。

管理部の責任となる差異額

総差異	<input type="text"/>	円	[<input type="text"/>]
内訳	変動費予算差異	<input type="text"/>	円 [<input type="text"/>]
	固定費予算差異	<input type="text"/>	円 [<input type="text"/>]
	操業度差異	<input type="text"/>	円 [<input type="text"/>]

(注) カッコ内には"借方"または"貸方"を記入すること。また、不要な欄にはすべて横棒" - "を記入すること。